



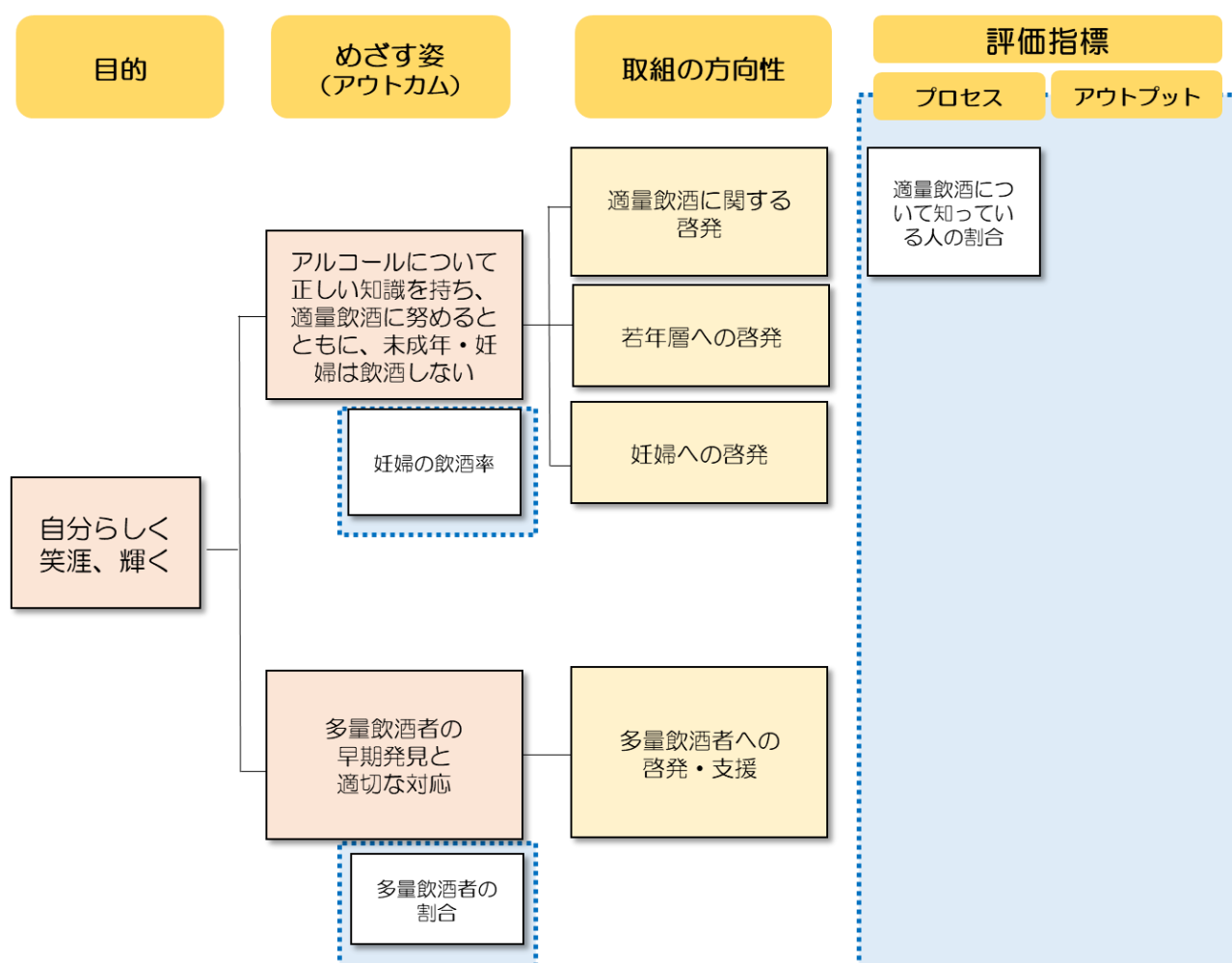
アルコール

過量の飲酒は、がん、循環器疾患、高血圧、糖尿病などの生活習慣病や、アルコール依存症のリスクが増加します。特に、未成年者の飲酒は心身の発育に、妊娠・授乳中の飲酒は胎児や乳児の発育に悪影響を及ぼします。未成年者や妊娠・授乳中の飲酒を防止するため、子供の頃から飲酒の影響についての正しい知識を持つことが必要です。また、成人してからは、節度ある適正量の飲酒に努めるとともに、高リスクである多量飲酒者の早期発見、早期介入により、アルコール健康障害を予防することが大切です。

分野でめざす姿

- 1 アルコールについて正しい知識を持ち、適量飲酒に努めるとともに、未成年・妊婦は飲酒しない
- 2 多量飲酒者の早期発見と適切な対応

取組と評価の関連図



分野でめざす姿1

アルコールについて正しい知識を持ち、適量飲酒に努めるとともに、
未成年・妊婦は飲酒しない

現状・課題

現 状	・適量飲酒について知っている人の割合 80.4% (年代が高くなるにつれて、知っている割合が高くなる) ・未成年の飲酒 把握できず ・妊婦の飲酒率 0.5%前後
課 題	・アルコールは、不適切な飲酒の仕方をすれば、健康への影響などを引き起こすことがあり、飲酒に伴うリスクについて理解し、必要な注意を払うことができるよう正しい知識を普及する必要がある ・特に、未成年者、妊産婦、若い世代に対して、知識の普及啓発が徹底できるように努める必要がある。

取組と評価指標

市民



次世代 ★

就労世代 ★

高齢世代 ★

- ・適量飲酒(※)を守る。お酒を飲む習慣がある場合は週 1～2 日の休肝日をつける
※男性 1日あたりの純アルコール量換算で約 20g
女性 その半分
- ・未成年、妊婦は飲酒しない

(1) 適量飲酒に関する啓発



行政



様々な機会を捉えて、適量飲酒について啓発を行います。

対象	室課名	取組内容
全世代	地域保健課	・イベントや広報誌、SNSを活用して適量飲酒について啓発を行う
就労世代 ～ 高齢世代	保健センター	・保健指導の場を活用して適量飲酒について啓発を行う



評価指標	現状値 令和元年度 (2019年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)
(健康まちづくり室) 適量飲酒について知っている 人の割合	80.4%	

出典：健康に関する市民意識アンケート調査

(2) 若年層への啓発



行政



若年層へのアルコールに関する啓発について、学校とも連携し、効果的な啓発を進めます。

対象	室課名	取組内容
次世代	地域保健課	・小中学生に対して学校と連携して啓発を行う ・大学生に対して啓発を行う

地域団体



若年層へのアルコールに関する啓発について、学校とも連携し、効果的な啓発を進めます。

対象	地域団体名	取組内容
次世代	薬剤師会	・学校薬剤師による小中学生を対象とした薬物乱用防止教室を実施する



評価指標	現状値 令和2年度 (2020年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)
検討中		

(3) 妊婦への啓発・支援



行政



妊娠届や乳幼児支援等、妊婦と関わる場면을捉えて、妊婦の飲酒者に対して支援を行います。

対象	室課名	取組内容
就労世代	保健センター	- 妊婦の飲酒のリスク等について周知啓発を行う - 妊娠届や乳幼児支援等の場で、妊婦の飲酒者に対して支援を行う

地域団体



市の関係機関と連携し、妊婦と関わる場면을捉えて、妊婦の飲酒者に対して支援や相談を行います。

対象	地域団体名	取組内容
就労世代	医師会★	妊婦健診受診時に飲酒者に指導や相談を行う (保健センターと連携)



評価指標	現状値 令和2年度 (2020年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)
(保健センター) 妊婦の飲酒率	0.7%	

出典：すこやか親子21母子保健調査結果

分野でめざす姿2 多量飲酒者の早期発見と適切な対応

現状・課題

現 状	- 多量飲酒者の割合 男性 2.3% 女性 0.38% 「ほぼ毎日」飲酒する人の割合 60歳代は他年代より高い
課 題	- アルコール健康障害の予防には、早期介入の取組が重要である。保健所を中心とした相談対応を行い、必要な支援につなぐことが必要である。 - 健診受診時などを活用し、多量飲酒者への情報提供などを行う必要がある。

取組と評価指標

市民



次世代

就労世代 ★

高齢世代 ★

多量飲酒の状態に気づき、早期段階で相談や治療につながる。

(1) 多量飲酒者への啓発・支援

行政



様々な機会を捉えて、アルコール依存症や、多量飲酒者への啓発・支援を行います。



対象	室課名	取組内容
就労世代 ～ 高齢世代	地域保健課	- アルコール専門相談において個別相談や自助グループの紹介を行う - アルコール依存症に関する啓発を行う
	保健センター	- 国保健診や30歳代健診等の受診者で保健指導の対象者のうち、多量飲酒者に対して保健指導を行う - 地域保健課と連携しアルコール依存症の早期対応につなげる



評価指標	現状値 令和2年度 (2020年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)
(保健センター) 多量飲酒者の割合	男性 2.3% 女性 0.38%	

出典：吹田市30歳代健診及び吹田市国保健康診査問診結果

■「くらし」にとけこむ健康づくりの取組

- ・ナッジを活用し、アルコールの適正飲酒につながる取組を展開する
- ・「くらし」にとけこむ場でのアルコールに関する啓発を展開する

例えばこういった取組が考えられます

- ・販売店でアルコールの適正飲酒の情報を掲示する
- ・アルコールに代わる気分転換やストレス解消方法を紹介
- ・
- ・